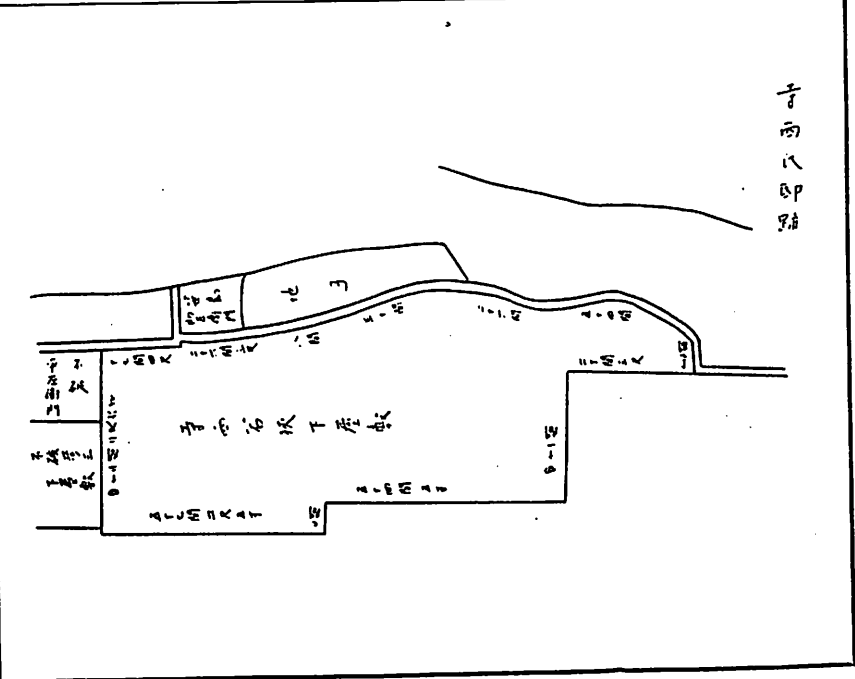


○那古屋氏舊邸

元祿六年の土帳に、那古屋字門淺野町。と見え、延寶の金澤圖に餌指町と不破彦三下屋鋪との間に名越屋千松と記載し、前口三十間奥行三十八間一尺五寸とあり。那古屋氏は加陽諸士系圖に、其祖藏人、寛永三年微妙公被召出、三千石賜之。富山附被命、後歸參。二代準人、父遺知之内二千石賜之、三代千松、後右門、父遺知二千石相續、寶永元年歿。其子吉太郎遺跡相續、幼少遺知三之一賜之、早世家斷絶。とあり。

○寺西氏下邸跡

寺西氏下邸の圖も延寶金澤圖に載せたり。按ずるに、右の圖にて見れば、延寶の頃は、寺西氏下邸は淺野川川下の街尾にて、殊に今云ふ上中嶋町・下中嶋町の地は悉く河原なりしを、後河原を築出して町地となし、今の如く商家等を建てたるもの也。中嶋町鑄造場の傳説にも、往昔は廣誓寺より下方に家屋無之、悉皆河原なりしが、後町地となり、追々家屋を建立して、鑄造場まで連櫓すといひ傳ふといへり。此の傳説にても、此の地邊の事知られけり。



○中嶋町

元祿九年の地子町肝煎裁許附に、中嶋町。とあり。今上中嶋町・下中嶋町と上下に分ちたり。年代摘要に、享保十五年町續家數、頭振淺野中嶋村十四軒。といふ事見ゆれば、淺野中嶋の村地なりしを、町地となしたるに依りて中嶋町と稱せしにや。或は云ふ、此の地むかしは淺野川の中島なるを築出し、町地と成したり。故に中嶋町と稱すと。此の説其の實を得たるなるべし。

○本源山廣誓寺

曹洞宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺は慶安元年八坂雲龍寺十代白翁和尚の開基にて、二代尊英和尚寺建立。開基檀那は不破彦三也。とあり。今の明細帳には、貞享二年五月雲龍寺八世白翁和尚之弟子傑外和尚開基、不破四代彦三勝次、菩提所石川郡五郎嶋眞言宗安養山廣誓寺之祠堂を移し、曹洞宗に改め、本源山廣誓寺と改稱す。とあり。按ずるに、貞享二年五月は舊藩五世參議綱紀卿、加賀・能登・越中三國の神社佛閣の來歴を書出さしめられ、廣誓寺より由來書を言上せし年月也。然るを寺開闢の年月の如く記載せ

しは、甚しき誤なり。維新以來の寺院明細帳は、かゝる誤多く證とするに足らず。

○廣誓寺地藏堂

此の地藏尊は、御丈ケ一尺五寸許の木像にて、厨子に安置す。略縁起に云ふ。抑此地藏菩薩は、弘法大師一刀三拜の作にて、當寺開基檀那不破氏元祖河内守光治の念持佛也。其さき光治、織田信長公に隨従ありし頃、紀伊國の高野山へ參籠、國家安穩武運長久を祈念し、屢、戰場を經といへども、生涯負傷を受けず。其後加州へ來り、其子孫當寺を創立して、尊像をば寺中に安置す。然るに近く天保六年三月十一日の火災に、寺院既に焼んとせしに、童形の僧現出して防禦す。是全く地藏尊なる事、諸人の知る處也。故に夫より世人火防地藏尊と崇め、毎歲三月十一日鎮火講と唱へ、大般若經を轉讀して、彌・益・鎮火の守護あらん事を祈念す。とありて、名高き地藏尊とて世人信仰すと云ふ。

○淺野吹屋町

此の町は鑄造場の地邊を呼べり。但し明治四年戶籍編成の時、吹屋町の町名を廢し、下中嶋町に屬せしめたり。